

ぴんぐわん

1
2024 睦月
Vol.476



謹賀新年





新年ごあいさつ

代表理事組合長

大西 勝 視

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、ご家族お揃いで希望新たに新年をお迎えのことと謹んでお慶びを申し上げます。皆様には常日頃からJAの事業の推進、進展に御理解と御協力を賜り心から御礼を申し上げ、今年も引き続き、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、田植え頃の不安はあったものの夏場には猛暑が続き、作物は急激に成長する一方で、花芽が付かないなど一部には「高温障害」と思われる状況がありました。水稲では、上川「105」とやや良から5年連続の豊作基調が続きましたが、防除時期の降雨によるカメムシの被害、シラタの発生もあり、製品重量の減少と合わせて、全道的な現象ではありましたがタンパク値では平均で8%前後と非常に高く、ゆめぴりかの基準品は約10%余りとなるなど、残念な結果ではありますが、農家組合員の努力によって、昨年も美味しい「お米」の生産が出来たと思っております。

また、青果物も高温障害などにより、収量・品質に影響があり、計画を下回る結果となりました。生産資材等の高騰を含めあらゆる物価高騰の影響は、経営を圧迫しているところであります。

本町では、肥料等の物価高騰対策には、第一陣として28,143千円の対策費を受けましたが、高騰率が約80%近くになるため、第二次の補正予算が組まれることとなりました。

長引くコロナの感染拡大が落ち着いたことで、5月以降、インバウンドをはじめ、人流が活発になり、コメ・砂糖の消費拡大が進み、在庫問題は一定程度解消されてきましたが、牛乳の問題はまだまだ厳しい状況にあります。

今年は、新たな食糧基本法の見直しと同時に、食糧安保とともに食糧危機の問題が大きく取り上げられてまいります。水活の5年問題など農業・農協・農村を取り巻く環境は、激変期を迎えるのではないかと思いますので、しっかりと情報の収集に努め、関係機関と共に、また皆様と一緒に協議していかなければならないと考えております。

さて、合併についてですが、昨年末からようやく部門協議が始まり、具体的な話し合いを進めることとなりましたので、皆様にお知らせする機会を作っております。

また、懇談会で説明したとおり協議の基本は、組合員資格と出資金の問題でありますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、令和6年度の生産の目安については、再生協議会の協議を経て、個別配分をしておりますので、よろしくお願い申し上げます。

本年がJA、組合員皆様にとって実り多い年となりますよう関係機関と共に連携を図りながら、役員一同、引続き事業推進に努力して参りますので、今年も引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。

比布町農業協同組合

代表理事組合長	大西勝視	信用担当理事	鎌田貴之
理事	山口剛志	営農担当理事	藤本敏之
理事	浅野章雄	代表監事	森真須美
理事	中野譲	監事	山崎誠一
理事	北川雅樹	員外監事	大川智



令和6年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 樽井 功

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先は天候に恵まれ地域によって降雹被害や竜巻の被害が見られたものの、概ね、平年並みに推移しておりました。しかしながら夏場は猛暑による記録的な高温多湿の影響を大きく受け、各作物の生育自体は、一般的に平年よりも早く進んできましたが、各作物等の収量および品質の低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは昨年5月より5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっています。

さらにこれらの影響を受け、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっています。

現在、日本の食料自給率は38%しかありません。

これは、世界の先進国の中で最低の水準であり、6割以上の食べ物を輸入に頼っているのが日本の現状です。

食料安全保障の強化が国家の喫緊の課題であることから、我が国の食料供給基地である北海道農業が果たしてきた役割、そして北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

J Aグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいく必要があります。行政や全国連とも連携し、しっかりとその対応を図って参ります。

今年は、第31回J A北海道大会が開催されます。

また、第30回J A北海道大会の実践最終年度であり、決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の成果をしっかりと検証し、次のJ A北海道大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで以上に農業・食に対する理解を求めため、J Aグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させ、より効果的な情報発信を行い、J Aグループが提唱する「国産国産」の認知を広めて参りましょう。

結びになりますが、本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊穰の年となること、皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



新年にあたって

上川農業改良普及センター

所 長 鈴 木 康 義

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様には、新たな気持ちで輝かしい初春をお迎えのことと存じます。

また、皆様には平素から普及センターの活動全般にわたり深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、融雪期は平年と比べ11日早い3月29日となり、例年のない温暖な春を迎えました。融雪後、耕起作業は平年に比べ7日早く始まりましたが、その後の断続的な降雨等により、春耕期の作業は平年並みとなりました。6月初旬に低温の期間がありましたが、その後の天候は順調に推移しました。大きな気象災害は無かったものの、例年のない高温多湿の気象経過であり、特に8月中旬から9月中旬にかけての高温条件から各作物とも、平年どおりの品質・収量を確保することが難しい年となりました。

こうした気象経過から、上川地方における水稻の作柄は、収穫を前に倒伏が多く見られ、懸念された胴割粒等は多くなかったものの、品種によっては白未熟粒が多く、高タンパク化など品質に大きな影響を及ぼしました。各転作作物についても高温の影響や、降雨による収穫期の遅れにより品質・収量の低下を招いています。しかし、園芸作物については、高温による影響は見られたものの、全国的な供給減による価格の上昇で増益となった品目もありました。

このような状況にあって、気象条件や病害虫の発生に対応した、皆様のきめ細やかな栽培管理が凶作を回避する結果に繋がったものと、改めて敬意を表すところでありますが、今後も気候変動による農業生産への影響に対しては警戒と対策を考えなければならない状況にあると思います。

国では令和4年に「みどりの食料システム法」を制定し、農林漁業及び食品産業の持続的な発展、環境への負荷の少ない健全な経済の発展等をめざしています。また、国際情勢の変化から生産資材価格の高騰が農業経営に多大な影響を与えている中、国内では、食品原料価格の値上がりが続ぎ、食料安全保障等、農畜産物の国内生産に対する期待も高まりつつあります。先行きが予想できない状況ではありますが、地域の実情と産地の歴史を踏まえるとともに、経営規模の拡大、農業経営の複合化や6次産業化の取組を行うなど、効率的かつ安定的で多様な農業経営体を育成・確保することで、この難局を乗り越え、持続可能な生産基盤を確立できるものと考えます。

普及センターも、国内外の情勢を的確に捉え、組合員の皆様及び関係機関の方々と一体となり、共に考え、生産振興と地域振興を支援してまいりますので、皆様の一層のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして健康で希望に満ちた良き年となり、豊穰の年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

謹賀新年 上川農業改良普及センター

所 長 鈴木 康義
次 長 松浦 準

〈比布町・当麻町・愛別町・上川町〉

地域第二係長 白井 淳(水稻)
主査(地域支援) 小柴 潤一(水稻)
主査(園 芸) 草野 祐子(園芸)

専 門 主 任
専 門 普 及 指 導 員
専 門 普 及 指 導 員
普 及 指 導 員
普 及 職 員

桂川さつき(水稻)
野原 弘義(畜産)
井村 直樹(園芸・園芸)
水尾 健斗(水稻)
道畑 乃映(園芸)

〈広域担当〉

主任普及指導員 若宮 真人
主任普及指導員 辻 敏昭
主査(担い手) 岡元 幸恵
主査(情報・クリーン有機) 竹村 和泰
主査(高付加価値化) 松田 聖子



新年のご挨拶

比布町青果振興会

会 長 菅 原 勝 美

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より青果振興会の事業に対しまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の青果物の状況としては、春先からの異常気象により色々な品目で高温障害等の問題が多く出ました。生産現場では障害を少しでも軽減できるように、適切な温度や灌水の管理に努めてきましたが、最終的には全体として出荷量や販売金額ともに減収の見込みとなり残念な結果となっています。

農業を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。

その中で昨年より町のご尽力により、青果振興会が要望していた新規及び継続した作付に対しての町単独補助事業として、ハウスの補助、施設等または機械補助、新たな栽培体系・品種・作物の導入補助、畦畔再構築などの項目を設けて頂きました。また、それに伴い農協に対しても青果振興会から、今年度からの補助事業を要望し検討を頂いているところです。

本町は、水稻を中心とした農業経営となっていますが、その経営の中に青果の品目を少しでも加えて頂き、複合的な栽培により新たな経営の糸口となればと思います。家族構成の高齢化やパートさんの減少など、雇用の問題により作付けできる品目や面積などの制限があることや、畑地化の問題などもあります。関係機関の補助事業を有効に活用して頂き、少しでも青果物が農業の力になればと思います。

また、水田活用直接支払交付金の交付対象水田の見直しにより、青果物圃場の多くは今後産地交付金の対象外となることが想定されますので、青果振興会として会員の方々に、農協への出荷物に対しての補助事業を考えています。青果振興会の事業となりますので予算が限られていますが、この件も農協並びに町のお力を借りながら、会員の皆様の少しでも生産意欲増加に繋がればと思います。

最後になりますが、皆様のご健勝と本年のご努力が報われる実り多い年と成ることをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

 比布町青果振興会

会	長	菅	原	勝	美	理	事	太	田	敏	雄
副	会	長	西	間	互	理	事	佐	藤	孝	夫
副	会	長	岡	田	浩	理	事	道	下	政	幸
会		計	菅	原	雄	監	事	島		行	夫
理		事	田	沼	栄	監	事	片	澤	英	幸
理		事	稻	場	雄						



新年のご挨拶

比布町畑作振興会

会長 牧野 充 記

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

日頃、当畑作振興会事業の推進に当たり、当会会員をはじめ、関係各位よりご支援とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスとの関わり方が見直され、昨年3月にはようやく通常の定期総会を開催することができました。このパンデミックを人類がようやく乗り越える段階を迎えているようです。しかしながら、いまだ収束しないロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとイスラム組織ハマスとの戦闘など、痛ましい光景が報道で連日伝えられております。これらの遠い国での出来事に加え、為替相場における円安傾向が、私たちの営農活動にも、多大なる影響を及ぼしております。昨年もたくさんの「値上げ」という単語をよく耳にしました。

このような状況の中、水稻においては少雨、高温による水不足、風雨による倒伏などによる品質低下が懸念されましたが、収量品質とも平年に近い作柄となりました。「生産の目安」やインバウンドおよび、外食産業の復調傾向、また本州以南での猛暑による減収が影響し、米価については、ほぼ期待に値するものとなりました。

秋播き小麦は、細麦傾向ながらも平年収量を確保できました。大豆では、生育は順調に進みましたが、しわ粒やしみ状の着色により等級に影響を及ぼしました。そばにおいては、高温障害による収量低下が見受けられました。一番草は順調に収穫できた牧草ですが、短時間に激しい降雨があったため滞留水による影響がみられました。高温障害に加え、集中する降雨などにも今後も懸念される事象であります。

そのような中、昨年は町内で新たに子実とうもろこしやサツマイモの栽培に取り組み、収量としては好成績となりました。これらは高温傾向がもたらす恩恵ともいえるかもしれません。

令和5年は「水活交付金の厳格化」と、それに付随した畑地化促進事業への対応にも苦慮された方も多くおられます。これら農業政策への対応、「地球沸騰化」などとの言葉が生まれた気候変動や多岐にわたる物価高騰、加えて農業者人口減少など、様々な局面を迎えている農業ではありますが、基盤整備事業の活用や日々革新されている栽培技術、スマート農業などの新たな技術の活用など、多方面にアンテナを向け営農に反映していく必要があります。

当会では例年の事業の推進とともに、町内の作業受託組織のご協力を頂き、畑作物振興を通して本町農業の更なる発展に繋ぐよう歩んでいきたいと思っております。

皆様におかれましては本年の健勝とともに、豊穰の出来秋を迎えられます事を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

 比布町畑作振興会

会 長	牧 野 充 記	理 事	西 本 龍 二
副 会 長	北 川 雅 樹	理 事	宮 崎 邦 夫
副 会 長	佐 藤 良 二	理 事	高 橋 祐 司
会 計 ・ 書 記	北 脇 隆 男	監 事	中 野 謙 讓
理 事	上 西 雄 二	監 事	合 田 正 人



新年にあたり

比布町畜産振興会

会 長 森 勝 利

謹んで、新春のお祝い申し上げます。

平素より、比布町畜産振興会の活動におかれまして、格別なご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。近年、酪農畜産を巡る情勢は急速な国際化の進展とともに激動の時代を迎えております。

昨年を振り返り・・・

昨年は、新型コロナウイルスの流行に伴う制約下での生活も緩和されたのも束の間、ロシアのウクライナ侵攻における国際情勢の緊迫化、経済不況が続き、過去に経験しなかった不安の中でありました。6月中旬からの晴天高温に賜り、一番牧草の収穫は、順調に従事する事ができました。しかしながら、濃厚飼料及び資材、燃料の高騰が直接経営に影響されたのが現実であります。

需要と供給のバランス・・・

コロナ禍における酪農家の生乳の需要が停滞しつつ、出生子牛の売価下落、飼料の高騰における経営の圧迫により、昨今道内における先進地域では乳肉複合経営における黒毛和種の受精卵移植を活用し、収益性向上を目指しているのが現状であります。地域家畜市場での黒毛和種の出荷頭数は近年まれに見る増加頭数に伴い、全道において売価下落の傾向に見受けられます。需要と供給のバランスを常に考慮する必要があるわけで、優秀な黒毛和種の生産にシフトする事が今求められていると感じられます。また、最新の改良情報の伝達と現場情報の収集、提供を勧めて会員一同、生産販売にも積極的に取り組んでいく様、努めていく所存でございます。

結びに・・・

今年も変わらぬご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願い致します。本年も皆様が御健勝で御多幸であります様、心からお祈り申し上げます。

 比布町畜産振興会

会	長	森	勝	利
副	長	熊	谷	繁
会	計	森	浩	恭
監	事	大	倉	涉
監	事	大	熊	勝
			勝	幸





新年のごあいさつ

J A び っ ぶ 町 青 年 部

部 長 廣 瀬 幸 寛

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新年を健やかに迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。また、日頃より青年部活動に対しまして、組合員の皆様、役職員の皆様のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、3年程続いた新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に引き下げになったこともあり、青年部としてもイベントや行事などの活動も以前のようにできるようになってきた事を嬉しく思います。

しかし、物価や原油の高騰に悩まされ猛暑による農作物への影響も大きかった年だったのではないのでしょうか。また、海水温も高かったりと地球温暖化を肌で感じるような年だったように思います。このように、毎年不安定な天気、物価などにも対応し営農していかなければならないですが、青年部としても情報共有しながら、収穫、品質向上をできるように努めていきたいと思ひます。

結びになりますが、青年部活動に対しまして皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、本年も皆様のご健勝で豊穡の秋が迎えられますようご祈念申し上げまして、新年のあいさつとさせていただきます。



謹賀新年 JAびっぶ町青年部

部	長	廣	瀬	幸	寛	理	事	岩	湊	彬	人
副	長	池	田	良	平	理	事	合	田	正	人
副	長	定	岡	伸	之	監	事	今	野	勝	貴
会	計	稲	場	雄	哉	監	事	今	城	浩	貴
理	事	奥	山	和	浩						



年末年始業務(営業)日程



(令和5年・6年)

JAびつぷ町

月日	部門 事務所 資材店舗 農機研修センター	ホクレン 比布給油所	金融店舗	
			窓口	A T M
12月29日(金)	平常営業 大掃除(業務納め)	平常営業	平常営業	平常営業
12月30日(土)	休業	平常営業	窓口休業	平常営業 9:00~12:30
12月31日(日) (大晦日)	休業	営業 8:00~17:00	休業	休業
1月1日(月) (元日)	正月休業	正月休業	正月休業	正月休業
1月2日(火)	休業	休業	休業	休業
1月3日(水)	休業	休業	休業	休業
1月4日(木)	休業	平常営業	平常営業	平常営業
1月5日(金)	休業	平常営業	平常営業	平常営業
1月6日(土)	休業	平常営業	窓口休業	平常営業 9:00~12:30
1月7日(日)	休業	平常営業	休業	休業
1月8日(月) (成人の日)	休業	平常営業	休業	休業
1月9日(火)	平常営業	平常営業	平常営業	平常営業



比布町米麦改良協会

会 副 委 委 委 委 委	会 会	長 長 員 員 員 員 員	大 村 御 作 佐 大 浅 中	西 中 困 田 藤 熊 野 野	勝 一 正 恵 康 勝 章	視 徳 寛 一 則 幸 雄 讓	委 委 委 委 委 監 監	員 員 員 員 員 事 事	牧 高 安 林 浅 水 森 奥	野 橋 達 野 尾 山	充 祐 順 敏 仁 健 真 和	記 司 一 裕 志 斗 須 美 浩
---------------------------------	--------	---------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	----------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------------



令和5年度水稲の生育状況などについて

令和5年の生育期間中は、平均的に高温となり、収穫適期は早まりました。収穫期間中は、雨天が続いたこともあり、収穫作業に遅れが見られました。品質的には、蛋白質含有率は高めに推移しました。被害粒（胴割粒、腹白粒、白未熟米）について、本町は全体的に胴割粒が多くみられましたが、腹白粒、白未熟米は平年並みでした。北海道全体としては白未熟米も多く見られたようです。

令和5年度の生育状況

令和5年度は3月の気温が平年より高く推移したため、融雪が順調に進みました。移植時期である5月4半旬は天候に恵まれましたが、5半旬は低温となったため、稲の活着・分けつにバラつきが見られました。6月2半旬以降から、日照時間はやや少なかったものの、気温が確保されました。幼穂形成期は平年よりも2日早く、7月1日の生育調査では、㎡当たり茎数は平年比108%となりました。その後は、高温・多照傾向が続き、出穂期は平年よりも4日早い7月21日でした。8月3半旬以降記録的高温が続き、断続的な降雨により土壌に水分が含まれる期間が多くなりました。そのため、登熟が早まりました。

上川地方における作況指数は105の「やや良」と発表され、豊作年となりました。(609kg/10a)

ゆめぴりかの基準品率

本年産の品質としては、全体的にタンパクは高くなりました。ゆめぴりかの基準品は一般米比率で約12%でした。

令和5年度の主要病害虫発生状況について

○いもち病発生状況について

発生状況は「並」でしたが、局所的に葉いもち病、穂いもち病が確認されました。6月6半旬～8月2半旬の断続的な降雨による多湿と、平年より茎数が多く、ほ場の風通しが悪くなったこと等が考えられます。地域への蔓延を予防するためには予察と防除の実施が重要となります。

○ヒメトビウンカの発生状況

発生状況は「並～やや多」でした。収穫等への影響はありませんでしたが、予察と適正防除の実施が重要となります。

○カメムシ(アカヒゲホソミドリカスミカメ)

平年と比べて「並」でした。予察や基幹防除の実施により概ね発生密度は抑えられましたが、牧草地の周辺や山間部などで一部、吸汁による斑点米の被害が見られました。

○胴割れ米と倒伏について

落水管理後の気温が高く土壌水分が不足したこと、出穂後の10日間の気温が高温傾向のため、平年より胴割れ粒の被害が多くみられました。

草丈は平年並みでしたが、8月の猛暑の影響により、茎葉の枯れ上がりが登熟中期から見られ、稈、葉鞘とも脆弱になったところに、風雨や病害が追い打ちをかける形となり、町内全域にわたり倒伏被害が見られました。

J Aびっぷ町役員視察研修

令和5年11月29日～12月1日の3日間にて、大西組合長他10名は新潟県「株式会社バイオマスレジン南魚沼」と栃木県「東日本農産株式会社」を視察してきました。

●株式会社バイオマスレジン南魚沼

米を活用したプラスチック樹脂原料の製造・販売を行っています。

国は、CO2排出による環境問題に対応するためバイオマスを原料としたプラスチックの導入を進



めており、同社では米(非主食用)を使用し「ライスレジン」という国産バイオマスプラスチックを製造しています。「ライスレジン」はごみ袋や大手ファストフード店や飲食店のスプーン・フォーク、道内ではコープさっぽろのレジ袋などに使用されています。

環境への配慮以外にも、米需要の低下や休耕田の有効活用にもつながることから農業課題へのひとつの解決策として注目しています。

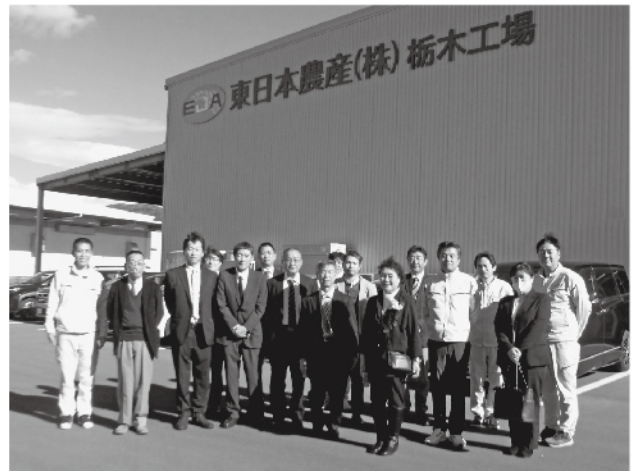
●東日本農産株式会社

高橋商事株式会社(旭川市)、株式会社神明、木徳神糧株式会社(東京)の米穀業界大手3社が手を組み2020年に立ち上げられた会社で、主に網下などの特定米穀を調製・販売しています。

約1,870坪の工場では、主に東北や関東から集荷した原料を最新鋭の設備で用途別に調製し米を一粒も無駄にすることなく製品化しています。

特に網下も用途に応じた色選調製をおこない、米菓・味噌、玄米茶の原料として販売されており、まさに米のフル活用でした。

また、同社は食品安全の国際規格である「FSSC22000」を認証取得して「安全・安心・品質」を追及した生産体制に取り組んでいました。



今回の研修では、主食用途ではなくバイオマス原料や特定米穀としての米の活用について学びましたが、米を一粒も無駄なく販売し、生産者所得向上に向け今後の戦略に反映するよう役職員一同努めて参ります。

JAびっぶ町青年部 一泊研修旅行



サッポロビール北海道工場

JAびっぶ町青年部では、11月1日～2日に一泊研修旅行を開催し、部員10名が参加しました。1日目には、恵庭市のサッポロビール北海道工場を視察し、原料の仕込みから発酵・熟成、ろ過、パッケージングまでのラインを見学し、試飲も行いました。午後からは、エスコンフィールド北海道を訪れ、スタジアムツアーに参加し、球場やインタビューエリア、ダグアウトなどを見学しました。2日目には、小樽市の北海道ワイン小樽醸造所を視察し、工場エリアの見学、大画面での映像による鶴沼ヴィンヤードの体験、また、地下にある特別テイスティングルームでのワインテイスティングが行われました。平成26年以来、9年ぶりの開催となりましたが、様々な施設を見学し、部員同士の交流が更に深まる充実した一泊研修旅行となりました。



エスコンフィールド北海道



北海道ワイン小樽醸造所

あなたのうちへ
福をマネ〜く

『家の光』12月号・1月号
購読申込受付中!

1月号
別冊付録

ちぎり絵
ブック

2024
家の光
家計簿

12月号
第1・第2
別冊付録

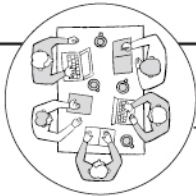
10
福をマネ〜く

家の光

定価(税込)
●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円
●家計簿付き12月号 1,027円

お申し込みは
お近くのJAへ

©umetigiri



理事会報告

次の案件について協議し、承認決定されました。

第9回理事会 令和5年10月25日

- ① 定期監査報告
- ② 出資金の異動について

第10回理事会 令和5年11月20日

- ① 出資金の異動について
- ② 役員報酬審議委員の選出について
- ③ 規程類の一部変更について

第11回理事会 令和5年12月15日

- ① 定期監査報告
- ② 令和5年度期末見込みについて
- ③ 組合員資格精緻化に伴う資格変更状況について
- ④ 出資金の異動について
- ⑤ 令和3年産米(酒・加工・輸出)追加精算並びに令和4年産米(一般・備蓄・加工・輸出・飼料)追加精算並びに令和5年産米(一般・備蓄)追加精算及びくず米等精算について
- ⑥ 職員の年末手当支給について
- ⑦ 福利厚生資金の貸付利率改定について

JAぴっぷ町公式 SNS

JAぴっぷ町では、公式SNSで、JAぴっぷ町からのお知らせや、営農情報などを発信しています。広報誌では掲載できないカラー写真や動画なども配信していますので、忙しい時でも情報を受け取ることの出来る公式SNSを是非ご利用ください。



LINE公式アカウント

JAぴっぷ町からの無線放送の一部をお届け。



Facebook

JAぴっぷ町からの営農情報や、各課からのお知らせなどをお届け。



担い手に役立つ 営農技術や流通 盛りだくさん

購読のお申し込みはJAへ
購読料 1ヵ月2,520円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
<http://www.agrinews.co.jp>

協同の輪を広げ 自己改革を進めよう JAグループ情報共有運動

謹んで新年のご祝詞を申し上げます

平素のご厚情に心より感謝申し上げます
 本日も変わらぬご交誼のほど何卒よろしくお願い申し上げます

組合長 大西 勝 視
 参事 浅野 仁 志
 信用担当理事 鎌田 貴 之
 営農担当理事 藤本 敏 敏

《内部審査室》
 室長 大仙 裕 之
 嘱託職員 広瀬 利 正

《管理課》
 課長 高木 明日香
 課長補佐 牧野 由希
 臨時職員 川本 未咲

《金融共済課》
 課長 鎌田 貴之
 (貯金)
 課長補佐 柳本 浩介
 係 北條 友貴
 係 宮越 万依
 準職員 菊地 由香理
 (共済)
 課長補佐 福島 敦
 係 北村 勇登
 係 高橋 ゆうな
 臨時職員 菊地 友美
 (融資)
 課長補佐 茂野 靖子
 係 小笠原 ありさ

《営農課》
 課長 藤本 敏之
 係長 越智 悠太
 係 谷口 大樹
 係 木下 春菜
 準職員 福井 睦美

《営農販売課》
 課長 吉見 和宏
 課長補佐 三島 邦浩
 係長 大崎 一広
 係 岡本 拓実
 係 大洲 陽弘
 係 野林 雅哉
 係 野澤 志帆
 臨時職員 阿部 洋二
 臨時職員 羽原 詩織
 嘱託職員 蔵田 誠

《生産資材課》
 課長 今井 隆
 (資材)
 係長 大野 功郎
 係 太田 慎吾
 係 村澤 悠真
 係 高橋 郁也
 係 片倉 直子
 係 福井 佐葵
 係 小岩 晴南
 (農機)
 課長補佐 勘崎 貢司
 臨時職員 太田 正二
 臨時職員 石附 早紀
 (給油)
 係長 寒河江 友博
 準職員 原田 真千子
 臨時職員 芦野 道男
 臨時職員 八 美枝子



JAぴっぷ町くみあいだより 1月号 Vol.476

比布町農業協同組合

〒078-0342 北海道土川郡比布町西町3丁目5番14号 TEL0166-85-3111

ホームページ <http://www.ja-pippu.or.jp/>

●発行/令和6年1月 ●発行者/大西 勝視 ●編集責任者/営農課